



CLINICALPATH NEWS

Japanese Society for Clinical Pathway

一般社団法人

日本クリニカルパス学会

No.
41

発行日

2019年3月10日

in 函館

第19回日本クリニカルパス学会 学術集会開催報告

2018.10.12～13

第19回学術集会 会長、函館五稜郭病院
高金明典

第19回日本クリニカルパス学会学術集会を2018年10月12日(金)、13日(土)に、函館国際ホテルならびにFour Points by シェラトン函館の2カ所で開催いたしました。9月6日に発生した北海道胆振東部地震や学会開催前2週連続で大型台風により被害がでるなど自然の脅威が続いたため、学会参加を見合わせた方々もいらっしゃったようです。しかし、学会当日は心配された天候に大きな崩れもなく無事開催することができました。約1,900名と例年より少ない参加者数でしたが、地方開催のため交通や宿泊施設などで不便をお掛けするなかで、多数の参加をいただきましたことを厚く御礼申し上げます。

「進化するクリニカルパス」をメインテーマに、第19回日本クリニカルパス学会プログラム委員各位のご尽力を賜りながらシンポジウム5題、パネルディスカッション4題、ワークショップ4題を企画しました。また、今回より教育セミナー応用編が学術集会時に開催されることになり、初めての企画としてシンポジウムやワークショップとコラボした教育セミナーを開催しました。これまで以上に質の高い、内容の豊富な教育セミナーになったと思います。理事長講演、会長講演、招聘講演、特別講演では、クリニカル



パスの未来予想図を講演していただき、会員の皆様へ様々な提言をしていただきました。今回の学術集会演題総数は特別プログラム6題、主題プログラム80題、一般口演208題、ポスター発表245題、合計539題でした。オーガナイザー、座長、演者の



高金明典 先生

方々をはじめ、多くの会員の方々にご協力、ご尽力いただきましたことを感謝申し上げます。会場の収容可能人数の関係でやむなく2カ所での学会開催となり、巡回バスを随時走らせましたがご不便をお掛けしたと思います。しかし、2カ所の会場間には函館朝市もあり、移動ついでにちょっとした観光をされた方も多く、あまり苦情をいただくことはありませんでした。

今回の学術集会ではメインテーマとは別に、“おもてなし”に重点をおいて学術集会を運営しました。おもてなし

▶ 第19回日本クリニカルパス学会学術集会開催報告
第19回日本クリニカルパス学会学術集会賞 最優秀賞を受賞して
教育セミナー指導者養成コース研修に参加して

の試みとして、まずランチョンセミナーの事前登録を企画しました。これまでは早朝から学会場に向かい、ランチョンセミナーチケットを獲得しなければなりませんでした。が、事前登録により朝ゆっくりシャワーを浴び、朝食をとってから余裕をもって学会に参加することができたと思います。事前登録で満席になったランチョンセミナーもありました。もうひとつは「抄録閲覧 web アプリ」の導入です。若い会員の方々には好評でしたが、スマホの操作に不慣れな年代や老眼で細かい文字が読みにくい会員には無用のようでした。これは企画時から想定内で、活動性の高い若い会員が学会の合間に食事や買い物、観光を楽しむことを念頭におき、重い抄録集を持たずに学会に参加できるよう企画したものです。さらに好評だったのは学術集会ホームページに掲載した「五病ナースおすすめ情報」でした。函館五稜郭病院クリニカルパス委員のナースが会場周辺のリーズナブルで美味しいお店を紹介したもので、いわゆる観光客向けではなく、地元の人が行く店を紹介していますので大変好評でした。また、事前登録していただいた方には参加証の発送時に函館紹介パンフレットと乾物も同封して送りましたがこれもなかなか好評でした。会場の函館国際ホテルは改装したばかりで高級感のある、きれいな会場を提供できたと思います。

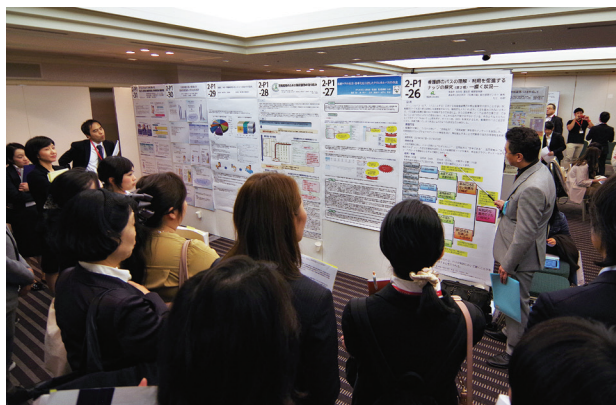
今回の学術集会開催で特に力を入れたのは会員懇親会でした。はるばる函館まで足を運んでいただいた皆様に、美味しい函館の料理を堪能してもらい、笑顔で会話が弾み、益々懇親が深まることを願い企画しました。目の前に山積みになったカニの足をはじめ海の幸を中心に、函館名物ラッキーピエロのハンバーガー、有名なハセガワストアの焼き鳥弁当など地元めしも取り寄せました。そして、メインイベントは北美原クリニックにご協賛いただいたマグロの解体ショーです。多くの参加者が一斉に写真を撮っている姿は圧巻でした。インスタ映えする写真が撮れたと思います。新鮮な脂ののったマグロの味はいかがだったでしょ



うか。皆様の記憶に残る会員懇親会になっていれば幸いです。おかげさまで約300名の参加者の多くが最後まで会場に残り、函館の夜を満喫していただきました。

以上、様々な企画をいたしました。盛会で終わることができましたことを有り難く思います。特に学術集会開催、運営を支えていただいた函館五稜郭病院のスタッフ各位には、この場を借りて深謝申し上げます。

今回の学術集会における成果が未来への架け橋となり、日本クリニカルパス学会の益々の発展につながれば本望です。



in 函館

第19回日本クリニカルパス学会 学術集会賞 最優秀賞を受賞して

2018.10.12 ~ 13

済生会熊本病院 6 東病棟
三森美佳

このたびは、第19回日本クリニカルパス学会学術集会賞の最優秀賞を受賞することができ、本当に嬉しく思います。学術集会賞にノミネートされたことを知り驚きもありましたが、それよりも「こんな私が。どうしよう。」と大きな不安を感じたのを覚えています。当日は、緊張で声が震えながらの発表でした。

今回、「胃切除パスの改訂による術後アウトカム改善に向けた取り組み」について発表させていただきました。当院では2005年から胃切除パスは術式別に4つのクリニカルパスを運用してきました。2016年にそれらを胃全摘術と幽門側胃切除術の2つに統合し、在院日数の短縮を目的にパスの改訂に取り組み始めました。バリエーション分析はとても大変でしたが、病棟の看護師全員に手伝ってもらいながら行いました。また、解析で行き詰まったときには、先輩看護師や先生などに助言をいただきながら、「疼痛コントロー

ル・早期離床・食事」についての見直しが必要であることがみえてきました。そして、医師をはじめ薬剤師、理学療法士、栄養士など他職種と話し合いながら、定期鎮痛剤の導入や術後1日目からリハビリ介入、早期経口摂取を開始するように変更し、胃全摘パスは入院日数10日、幽門側胃切除術パスは入院日数8日に改訂した新パスの導入が開始となりました。新パス導入後のアウトカムとして、バリエーション分析・評価を繰り返すことで、術後合併症や再入院・再手術件数を増やすことなく、在院日数を短縮することができ、安全と質が担保されたパスとなりました。また、新たな課題として、周術期のQOLを高めるためには、術前外来や入院中から患者の退院後の生活を見据え、患者のセルフケア能力を高めるための支援が必要であり、これまで入院中に行えた予防ケアを、患者のセルフケアによって在宅で継続できるように患者教育を強化していく必要があることがみえてきました。そして、患者教育として新たにセルフケアチェックシートや電話訪問の導入を開始しました。今後もさらなる課題改善に向け、微力ながら貢献できるよう、より一層努力していきたいと思っています。

このたび、私が最優秀賞をいただくことができたのは看護部をはじめ、医師、薬剤部・栄養部・リハビリテーション部など多くの方々にお力添えをいただいたことによるものであります。この場をお借りしてお礼を申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。

また今回、北海道胆振東部地震が発生し、災害対応で大変な中に、会場設営や懇親会の準備など学会開催にご尽力いただきました、函館五稜会病院 高金副院長をはじめとする主催者の皆様方に心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。次回の第20回は、当院副院長の町田二郎会長のもと熊本での開催です。熊本の素晴らしい復興をご覧いただき、皆様に喜んでいただけるおもてなしができるように励んでいきたいと思っています。



【日本クリニカルパス学会 第19回学術集会賞 受賞者】

最優秀賞：

1-A-03「胃切除パスの改訂による術後アウトカム改善に向けた取り組み」

済生会熊本病院 三森 美佳

優秀賞：

1-A-01「作成ガイダンスシート導入後の審査結果傾向と今後の課題」

国立国際医療研究センター病院 齊藤 大介

1-A-02「HbA1c低下・維持を達成目標とした糖尿病地域連携パス外来の解析」

横浜医療センター 池滝(堀川)晶子

1-A-04「電子カルテデータに基づいた誤嚥性肺炎の発症リスク患者の予測」

NEC 林谷 昌洋

1-A-05「地域包括ケアによる医薬連携の重要性—心原性脳塞栓症の再発予防」

済生会川口総合病院 須田喜久夫

【平成30年度日本クリニカルパス学会論文奨励賞】

実践報告：第19巻第3号掲載

「子ども用パス（幼児用・学童用）を活用したインフォームド・アセントおよびプレパレーションの取り組み」

秦野赤十字病院 安部 良子

実践報告：第20巻第1号掲載

「パスパッケージとしての肺炎クリニカルパスの作成とその使用経験」

羽島市民病院 下條 隆

【平成30年度日本クリニカルパス学会優秀英語論文賞】

Original Article

「Nutritional risk in allogeneic stem cell transplantation: rationale for a tailored nutritional pathway」

(Annals of Hematology 96(4): 617-625, 2017)

静岡県立静岡がんセンター 青山 高

Research Article

「A comprehensive intervention following the clinical pathway of eating and swallowing disorder in the elderly with dementia: historically controlled study」

(BMC Geriatrics 17(1): 146, 2017)

金沢大学附属病院 荒幡 昌久

Original Article

「Developing better practices at the institutional level leads to better outcomes after pancreaticoduodenectomy in 3,378 patients: domestic audit of the Japanese Society of Pancreatic Surgery」

(Journal of Hepato-Biliary-Pancreatic Sciences 24(9): 501-510, 2017)

関西医科大学附属病院 里井 壯平

in 名古屋

教育セミナー 指導者養成コース 研修に参加して

2019.2.16 ~ 17

湘南藤沢徳洲会病院 クリニカルパス委員、看護部
田畑梨紗

私の所属する徳洲会のグループ病院では、国際的な医療施設機能評価（JCI）認証や日本の病院機能評価などを通して、医療安全の強化、医療の質向上を目指しております。また、JCIで培ったノウハウを基に、医療安全業務の標準化、QI（質管理指標）、クリニカルパスの促進を3つの柱とし、TQM活動と位置付け、グループ全体で活動しております。そこでクリニカルパスを正しく作成・使用・PDCA・SDCAし、医療の質を継続的に向上できる人材を育成したいと思いこの研修に参加しました。

今回の開催で第2回となるクリニカルパス教育セミナー指導者養成コースは、日本各地より受講者33名が名古屋に集結し、パス学会企画・教育委員であるトヨタ記念病院の岡本泰岳先生、福井総合病院の勝尾信一先生、名古屋大学医学部附属病院の船田千秋看護師より濃い2日間のご指導を賜りました。

第1回指導者養成コースと同じく「地域におけるパス指導者の育成」を目的とし、①パスを正しく理解する、②パスを教育できるようにするという目標のもと、1日目スタートしました。緊張感ある雰囲気の中、岡本先生の基調講演「パス活動は人を育て、人がパスを進化させる」からスタートするはずが、パソコンがフリーズするというシステム要因のバリエーション（逸脱）が発生し会場が静まりました（笑）。しかし、勝尾先生のユーモアのあるミニレクチャー「パスを通した人材育成」、船田看護師の《看護師

あるある》ミニレクチャー「看護師さんへのパス教育」で笑いが起き、いつの間にか3名の指導者の柔らかい雰囲気と和まされ終始笑いの絶えない研修を受けることができました。

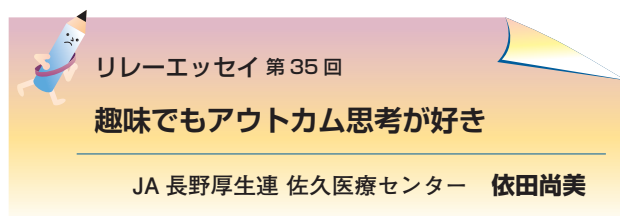
研修内容は、①3～4年目のスタッフ、②10年目のスタッフを対象とした模擬研修プログラムの企画立案・模擬研修実施・振り返りを6人1組のグループで行い、指導者としての資質を身に付けていけるものでした。模擬研修の企画立案の話し合いでは、初めて出会ったグループメンバーのなかで緊張しましたが、各病院のパス指導において、同じような問題点や悩みがあり、すぐに打ち解けることができました。そこからあるべき姿を導き、問題解決できるような模擬研修プログラムを企画しました。2日目の実施発表を前にして、意見交換という名の夜の懇親会では、やはりどの施設でも同じ悩みをもつ意見や様々な活動内容を聞くことができ、自身の励みとなり本当に良い出会いを得ました。

模擬研修の実際では、基礎講義プラス「カレーライス/カップラーメン作成パス」「伝言ゲーム」「eラーニング」「バリエーションデータからの分析・PDCA」など実技や体を動かした楽しめる内容が実施されました。実施後の振り返りでは、どのグループも目的・目標がぶれないように進めるこ



とが、研修のアウトカムを達成できるカギになることを理解し、自施設で実施できるような改善策まで考え出せたことは、実務的な研修ならではの学びであったと思います。

研修の全体を通し、受講者全員が自病院のパス普及活動に悩みながらも真摯に取り組み、患者さんやスタッフ、地域に対する業務改善や医療の質を維持・向上したいという強い思いがあったと感じました。今回の研修でその思いに応えようと、ご指導ご協力くださった岡本先生・勝尾先生・船田先生と学会事務局の方々に深く感謝し、また同じ志をもった仲間に出会えたことに感謝し、今後も院内やグループ病院のパス普及活動に取り組んでいきたいと思っています。



パスと出会って20年余りが経ちました。長野中央病院の成田先生からリレーを受けてパスに対する思いを込めて私の趣味である、ゴルフについて書こうと思います。

初めてゴルフをしたのは30歳代、病院の人に誘われて始めました。プロを目指すわけではないので、そんなに上手ではなく、それでも同伴競技者に迷惑をかけることがないくらいには回ってこられます。ゴルフをされる方はご存知かと思いますが、ゴルフは、パー72の設定に対して何打で上られるかを競う個人のスポーツです。最近、ゴルフをするたびに考えていることがあります。それは、ゴルフって設定したアウトカムに向けて様々なバリエーションと戦うスポーツなのではないかと（少し意味合いが違うかもしれませんが）。

当院は佐久病院グループとして5年前に3つの病院に分かれ、2,000名を超えるスタッフ数となりました。そんななか、スタッフ間の交流を目的に年2回院内ゴルフコンペが開かれるようになり、老いも若きも上手も下手も男女を問わず参加して技を競い合い、それぞれのアウトカムに向けて、交流を楽しみながらのコンペとなっています。普段顔を合わすことのない職場の方と、職種を超えて一喜一憂しながら過ごす1日はこの上ない至福の時です。

ゴルフは個人のスポーツですが、チームとして楽しむスポーツであり、様々なトラブルに対してどう早期解決していくのかを求められ、また年齢差を超えて楽しめるスポーツだと思います。自分の設定したアウトカムに向けて、バリエーションと戦う。そしてスムーズにプレイを進めていくためには同伴競技者同士が協力し合う。パス好きの私にとっ

ては、ピッタリのスポーツだと思う今日この頃です。

常にアウトカム設定をし、バリエーションを乗り越えながらプレイする。アウトカム思考が好きなのです。私の場合、最終アウトカムは「事故なく楽しくゴルフを終えることができる」なのでほぼ毎回アウトカム達成しています。

先日院内ゴルフ大会に参加したときのことです。トラブルが起きた時に「大変!! バリエーション発生!!」とか自分が満足のスコアで上がったとき「よし! アウトカム達成!!」と叫んでいると「それいいですね!!」とチームメンバーから言われました。パスの言葉はいつの間にかスタッフ間に浸透している、私の院内パス広報活動は報われたと感じます（まだ医療者以外には通じませんが）。

パスと出会って20年、特にパスの専任看護師となってからは、パス使用率のアップ、標準化の推進というアウトカムに向けて仕事をしてきました。そのようななか、色々な方と出会うことができました。今年、佐久総合病院を定年退職することとなり、今までパスを通してお世話になったすべての方に感謝するとともに、これからはパスが患者さんの役に立つツールとして発展していくことを願っています。私の当院でのパス活動において、パスの発展に少なからず貢献できたのではないかなと思えると同時に、後を継いでいただく方達には後退することなく活動していっていただきたいと思います。そして、パス学会においても、若い世代の方々に今後も頑張ってもらいたいと思っています。

そんな若い世代、事務部でありながら、パスを発展させようと奮闘している愛知県厚生連海南病院の白井幸樹さんにバトンを繋ぎたいと思います。

そして私は、今後パスから離れることとなっても常にアウトカム思考をしていくのだと思います。ありがとうございました。



依田尚美さん





第20回 日本クリニカルパス学会学術集会

会 期：2020年1月17日（金）・18日（土）

会 場：熊本城ホール（熊本県熊本市中央区桜町 3-13）

会 長：町田 二郎（済生会熊本病院 副院長）

メインテーマ：

「未来への道程」～パスで医療にイノベーションを～

プログラム：

招請講演、特別講演、理事長講演、会長講演、シンポジウム、
パネルディスカッション、教育セミナー、論文の書き方セミ
ナー、一般演題（口演・ポスター）、クリニカルパス展示など

事前参加登録募集期間：

2019年5月下旬～2019年11月（予定）

演題募集期間：

2019年5月下旬～2019年7月（予定）

第20回学術集会公式ホームページ：

<https://site2.convention.co.jp/jscp20/>



2019年度 学術研究助成

日本クリニカルパス学会では、研究によって臨床現場におけるクリニカルパスの導入・運用および改善の支援に寄与することを目的として、学術研究助成を実施しております。多数の申請をお待ちしております。

【学術研究助成 応募期間】 2019年4月1日（月）～5月31日（金）

2019年度 優秀英語論文賞（JSCP Best Paper Award）

【応募資格】 日本クリニカルパス学会 個人会員（申請時に個人会員であれば可）

【学術研究助成 応募期間】 2019年4月1日（月）～5月31日（金）

2019年度 クリニカルパス教育セミナー 基礎編

『楽しく学ぶクリニカルパスの基礎 ～知ろう！作ろう！使いこなそう！～2019』

2019年度教育セミナーは、昨年に引き続き夏に基礎編、学術集会で応用編を開催いたします。

パスの導入教育、初期教育の実施に悩んでいる病院の皆様はもちろん、すでに自施設で実施できている病院の皆様にも役に立つ内容となっています。多くの仲間と誘いあってご参加ください。

【東京会場】 2019年7月6日（土） 日経ホール（東京都千代田区大手町 1-3-7 日経ビル）

【大阪会場】 2019年8月3日（土） 大阪国際交流センター（大阪府大阪市天王寺区上本町 8-2-6）

※学術研究助成・優秀英語論文賞・教育セミナーの詳細は学会ホームページをご覧ください。